

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

のが虚偽の証言ではなく、真実の証言であるように、「証言=証し」とは心のなかに思い浮かんだ「真実の思い」を意味するということです。

酪農学園大学では学位記授与式における卒業生代表の答辞を「証詞」(あかし)と呼んでいます。2004年3月から行われているのですが、「本学で学んだことを将来に向けて語り約束する」ことを意味し、当時の宗教主任が名づけたものです。戦前の文学者に用例が確認されますが、基本的にはキリスト教用語の「証し」を漢語的に表現したものです。毎年、学位記授与式の場で卒業生代表の証詞に健民館の壇上で間近に接する機会に恵まれているのですが、その証詞から卒業生代表の「真実の思い」が伝わってくるだけではなく、証詞を真剣に聞く卒業生の表情から代表者の証詞が卒業生の「真実の思い」をも映し出しているように感じられるのです。

「真実の思い」を伝えるには勇気が要ります。しかも、それが自分のためではなく、「他者のための証し」としての「真実の思い」である場合には尚更です。わたしも様々な場面で自分の周りにいる人たちの「真実の思い」によって助けられてきました。その勇気に励まされ、慰められてきました。それゆえ、わたしも同様に「他者のための証し」としての「真実の思い」を表明することを心がけてきました。なぜなら、それがイエスの生き方であり、誰かを孤独に捨て置かない、人を真に活かすイエスの在り方だからです。この社会では特に小さな声——それはとても大切な声——に耳を傾けることなく、小さな声をあげた人が孤独に追いやられます。そういうときに「真実の思い」を「他者のための証し」として表明できるとしたら、これほど素晴らしいことはありません。みなさんが「真実の思い」を表明したくなるような誰かを、そして自分のために「真実の思い」を表明してくれるような誰かを、真の友として見つけられるよう願っています。

【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱します。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしています。

【次回の大学礼拝】2025年6月10日(火) 10時40分

聖書：ヨハネによる福音書5章33-36節

奨励：「ともしぐ火が照らす先」小林昭博(宗教主任)

【前々回の大学礼拝】

2025年5月20日(火) 学生：99名 教職員ほか：7名 合計：106名

【前回の大学礼拝(キリスト教教育強調週間)】

2025年5月27日(火) 学生：183名 教職員ほか：10名 合計：193名

【大学礼拝週報】2025年度 第7号(前学期第7号)

2025年6月3日(火)午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司式 小林昭博(宗教主任)

奏楽 佐藤理恵(野幌教会会員)

讃美指導 相原晴伴(循環農学類教授)

前奏 わが魂は主をあがめて(ワルター作曲)

讃美歌 21 515番(きみのたまものと)

聖書 ヨハネによる福音書5章31-32節

酪農学園大学聖歌隊

奨励 「他者のための証し——真実の思い」小林昭博(宗教主任)

祈り

讃美歌 21 566番(むくいを望まで)

報告

後奏 エホバよ、われは汝に歌わん(アーベル作曲)

【本日の聖書】ヨハネによる福音書5章31-32節

31「もし、わたしが自分自身について証しをするなら、その証しは真実ではない。32わたしについて証しをなさる方は別におられる。そして、その方がわたしについてなさる証しは真実であることを、わたしは知っている。

【奨励】「他者のための証し——真実の思い」

本日の聖書はキリスト教が重視する「証し」の真意を伝えています。31節でイエスは自分自身の証しが自己のためのものであるとすれば、それは真実の証しではないと述べています。そして、続く32節でイエスは自分について証しする別の方がいると断言し、その証しが真実であると宣言しています。ここでイエスが言う「別の方」とは神を表していますが、それは聖書を通して神が証ししているという意味もあります(ヨハネ5:39)。

本日の聖書において「証し」と訳されている *μαρτυρία* (マルテュリア) は法廷における「証言」を意味する語です。語源的には心のなかに「思い浮かべること」を意味しますので、単に口で言い表した内容ではなく、心のなかに思い浮かべた内容を表します。つまり、法廷において求められる